



社会福祉法人 聖音会

明日へ

第6号

平成20年3月18日発行

児童養護施設 鎌倉児童ホーム

(発行責任者 園長 渡邊優)

〒248-0017

神奈川県鎌倉市佐助1-6-6

電話 0467-22-0424

FAX 0467-22-1766

ごあいさつ

鎌倉児童ホーム 園長 渡邊 優

日頃から皆様方には、鎌倉児童ホームの運営全般に亘りまして、ご理解、ご協力をいただき、大変お世話になっております。心から厚く御礼申し上げます。

さて、この度暫く中断していましたが、広報誌“明日へ”を職員と種々検討し発行する運びとなりました。内容といたしましては、こんな一年間です、ということでそれぞれの行事の紹介です。子ども達の日常の有り様をお汲み取りいただきたいと思っております。

施設といたしましては、事業目的・基本目標はここ数年変わっていませんが、ケア方針につきましても、“子どもの権利を踏まえ、職員の子どもに対する受容的・支持的関わり、心理的問題の把握、子どもの意向の尊重と自主性の育成に配慮し、子どもの安定した生活、健やかな成長・発達と自立が図られるよう適切なケアを行う。”とし、主要課題につきましても、職員からの提案で、10項目を選びました。主な点は○平成20年度以降のケア体制の確立○みんなのルールの再整理○じりつブックの作成○ピカリホットの展開、余裕ある職員集団づくり○ヒヤリハットの継続、自戒ある職員体制づくり○物品管理と節約についての啓発と実践であります、職員一同、上記のケア方針と課題に真摯に取り組み、成果も上がっているように思います。

また、干支は猪突猛進のイノシシから、愛くるしいネズミ年になり「光陰矢のごとし」と申しますとおり、あっというまに、弥生となり当園吉例であります、卒園式を迎える季節となりました。今年は、高校生4人(女子)と中学生1人(男子)の子どもたちが、それぞれの道に旅立ちます。未知なる厳しい社会に向けての船出でありますので、児童ホームといたしましても、職員一同万全の体制で取り組み、努力もして参る所存でございます。

加えまして、まもなく迎える4月からの多勢の子どもたちが、仲間に入って参ります。児童養護施設を取り巻く環境は厳しゅうございますが、職員と共に知恵を出し合い、工夫もし、“和”を大切にし、子どもの人権を守り、自立支援に努め、地域に開かれた施設づくりを目指して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

鎌ホの年間行事

今年も文体行事に参加しました

今年も神奈川県児童福祉文化体育協会主催の様々な行事に参加しました。各行事ごとに参加希望者を募り、学校の部活、ボランティア活動などと両立しながら練習に励みました。参加行事一覧<6月「卓球大会」・8月「野球・ソフトボール大会」「水泳大会」・11月「駅伝大会」・1月「送別マラソン大会」・2月の「あすなろ交歓会」>



夏祭り

8月には「ご近所付き合い」をテーマとした夏祭りを開きました。新園舎になって5年目を迎え、子ども・職員一同、「みんなでステキな鎌ホを作れ！」をモットーに日々少しづつではありますが努力しています。今年度の夏祭りも地域の方々100名以上のご協力を頂きました。このように地域の方々と共に触れ合っていく経験が、子供達にとってより良い成長の糧になっていくことを祈っております。日頃から鎌ホも地域の中で生かされていますので、夏祭りに限らず、今後とも叱咤激励を頂きながらより良い鎌ホにしていければと思います。

クリスマス

12月にはクリスマス会を開き、日頃、お世話になっている方々への感謝の気持ちとしてご招待をさせていただきました。幼児のフレームンの音楽隊、小学生による劇、高校生によるバンド演奏に続き、ラストは小学5年生の女の子による「神の道化師」の朗読でした。年々、新しい試みが増えており、鎌ホの者もみんなで楽しみにしております。



卒園式

3月8日には卒園式を開きました。今年は5名（高校生4名・中学生1名）が卒園します。当日は学校、児童相談所、教会、ボランティアなど様々な形でお世話になった方々にもご来園いただきました。最後には卒園生一人ひとりからもご挨拶をさせていただくことができました。



鎌ホのいろいろ

チャリ旅2000キロ突破

日本一周一筆書きを目標に平成12年8月より開始されたチャリ旅も平成19年11月現在、北は岩手県下閉伊郡田野畑村から南は大阪府堺市まで約2000キロを走破するまでにになりました。初年度の参加者は既に卒園しており、今後も世代を越えて受け継がれていきます。

【社会福祉法人聖音会 鎌倉児童ホーム】
のホームページができました。

<http://www.seionkai.or.jp> で、子どもたちの様子をお伝えしていきたいと思えます。皆さんが知りたい情報などがあれば、リクエストしてください。わかりやすいホームページにしていきたいと思えますので、これからもご期待ください！



園の友会

毎年、海の日に園の友会を開催しております。今年は79回目になります。園の友会代表者の西村和子さんの挨拶に始まり、今暮らしている子どもたちも参加した楽しい園の友会になりました。毎年、子どもたちにとって、海の日には多くの卒園者たちに会える楽しい日になっております。来年は80回になります。多くの卒園生の方のご参加をお待ちしています。



11月には
中高生女子あゆみ会企画として
「JR山手線1周ナイトハイク」

を実施しました。鎌倉駅を終電で出発後、渋谷駅を起点・終点として約13時間かけて一晩中歩きました。鎌倉に戻った後に体重を確認した際には平均して約2kgは減少していました。

渋谷



渋谷・ハチ公ゴールにて

フリーマーケット

鎌ホの生活は措置費で成り立っています。措置費には使用する用途が決められていますが時折、措置費の範疇から外れるものでも必要とされるものが出てきてしまいます。そんなときのために始めたフリーマーケットです。お客様と交渉している子ども達の姿を見ると新鮮で頼もしく思えます。

～ これでいいのか児童養護施設、これでいいのか日本社会 ～

子どもたちの声を、気持ちを、思いを、可能な限り受けとめてあげたい。というのが、児童養護施設に携わる大人の願いです。しかしながら「可能な限り」という範囲は、近年の子どもたちの育つ環境、大きく変わらぬ職員数、小規模ユニット化に伴う生活の変化などでどんどん狭まっています。すなわち、施設の取り組みは実質的にはどんどん不十分な状態になっています。行政施策も打ち出されていますが社会の現況に追いついていない、抜本的な見直しに着手しない限りは解決しない、と言うのが正直な現場感覚です。

「次世代育成」「子育て支援」等々、国をあげてのスローガンや取り組みもありますが、一方での社会全体の意識変容（崩れ）がそれに勝り、子どもの養育という視点から見るとやりきれない気持ちを抱かせます。

もっとも大きいことは、社会全体が安易な出産を容認する、最近では助長するとまで思えるような風潮があることです。当人同士が結果を引き受ける離婚という形はあるでしょう。けれどもそこに子どもを巻き込まないでほしい、だからこそ安易に子どもが生まれるということは避けてほしい、子どもを授かったからには責任をもって育ててほしい、社会全体がその責任を重く捉えてほしい。近年の「できちゃった婚」はおろか「おめでた婚」という軽々しい報道にはやりきれない思いを持ち、「赤ちゃんポスト」はある側面から必要だと言われてもやはり容認しきれない気持ちがあります。

だからといって聖人君主のような生き方をしなければならないということではありません。しかし少なくとも、生まれてくる命は一つひとつがかけがえのない命です。多産のなかから淘汰されて生き残るということではないでしょう。

子どもたちが背負わされるものが、止むをえない家庭の事情からではなく、社会と大人の無責任の結果としてどんどん広がってきています。そして重篤化しています。

児童養護施設の危機は今の日本社会の危機です。

少しでもこの現実を目を向ける人たちが増えることを望んでやみません。

統括主幹 村岡 薫

ボランティアさん大募集！

鎌倉児童ホームでは、定期的に来ていただけるボランティアさんを募集しております。「1対1の学習ボランティア」「清掃なども含む家事のボランティア」「子どもたちの日常生活に関わっていただく生活ボランティア」など様々な形でご協力いただきたく思います。

お問い合わせは鎌倉児童ホーム（電話：0467-22-0424 E-mail：kamakura@seioknai.or.jp）

担当：山神 まで